

143

79

仲光

東京圖書館

一	一	二	音	和
冊	九	〇	樂	書
	號	函	類	門
				一

仲光

^之是の多田の備仲よ仕へた。着意の仲

光と申おめての。頼も沖子美女沖

前のあつらひに記守山も小登せか

ついでに学文を以て心よりれ

ついでに明言武勇の借まの由

字一古き。以の外表は憤りなく



果了。是より出供申をさつゆふ
 てと初よ。今白中山る。一あり。美女は
 前と御供申。只今出所へ来る。御
 せうふ申上し。美女は前御供申
 ての備仲詞しうふ美女。久敷る。より時下
 ゆく。うへ。学文能きよと也。まのく
 河短穂はきんと。紫檀の机よ金沈

の河短。さへ。瀆浦志存と。美女の前
 あり。さへ。香美る。美女の父はれ作
 につても。短う。い。あ。清音山。手習ふ
 子。を。あ。り。り。あ。ま。あ。て。や。河
 短。れ。一。字。新。な。ふ。よ。ま。は。り。た。れ。今
 更。ふ。後。に。調。子。計。なり。備仲詞 尋。々。き。ん
 ち。う。う。子。あ。れ。り。一。ち。り。貴。院。階。紙

此物濫めく社々へ。先く河佩刀と給
 たりし人^{海仲}可給美女と討て美り人
 ざりしものあくる。明神氏の社も
 所知見あまき。仲老とよにを給ふ
 の^三益す。一とを。行^三かすも河邊を
 背と申向鋪候。まのくは月へ
 出入り。言借道ひひの外の河邊り

めては。此河を。有^三懸い。い。く。は。好。し。り。を
 加^三福^三通^三さ。ん。ね。ま。ひ。ひ。の。か。く。行。と
 任^三の。方。一。ま。の。者。一。申。さ。り。や。と。好。く
 いらは申上。の。只。今。の。奈。り。れ。は。好。ふ
 て。果。も。遂。惑。は。り。て。の。美^三女。あ。り。ふ。仲
 老。只。今。の。自。然。外。へ。は。さ。の。仲。老。り
 制。ま。さ。ふ。よ。わ。り。美。女。と。討。へ。美。り

ともを思ひては、我物新小等
 あり。ともを自ら首級取、又はの由目
 小掛く、^{ミナ}定く健氣抄中、或作
 の物式。可治行と伝ふた。一まの落
 し申は、よするめても、や行と申を
 又は使のきもなると申う。あ
 矣止む。叔行と仕りふ。こ。定む
^上

何れも報ひ有ける。浮世う那傳へ
 阿させ太子のむんも、わら紙か
 ともは、^上是皆宿縁うくのあや
 妻に、^上よ去めて世を、^上現世に徳く
^上報ひ人の甘あ。只自らも
 ところろ紙、愚かや恨きある。浮世れ
 中と思ふ。たうむ、浮世を
^上

諸君の御時移るに首と
仲光と云れ紫の海をすむ
そとくうと云れ長葉の年の

程少くも。河命に替りぬんを

惜うぬ命もことよまて

心細をぬ口サ一さの依 幸壽詞 けふ又上

只それゆを紫くも。幸壽の身に毎

アてく。早自の首取。美女は前と

何と申そ。美女河前のは命にあら

ぬまねと申り。ゆは仲光の子に

て。今く母の首と云薄衣子は

夜まふれよ。何と云目ふく

あ。今く。今く。親子れは子

あ。今く。今く。親子れは子

あ。今く。今く。親子れは子

よも定らぬは後一々も一更に
 御命に替りて。時刻移りて叶ま
 し。太刀造きて仲光ハ。致されぬ
 よまよのわら美美女ハ仰られ忠一々
 仲光ウ被ふまうりつ。縦幸妻とま
 ども。僕不自自苦ふ月子。親一。位形
 きて制されハ。おまの命に替りて

弓矢取才の習ひ也。忠一。やあたる
 小争ふ命の際。幸一。寿とま
 美女美美女も立よる。あつハ。主君。此方ハ。思
 子中。あましく。仲光ウ。才ハ。是程
 にか。行と。せま。と。あ
 ん。猛心。心を。弱。果。ま。り。記
 う。親。あ。た。惜。ま。ぬ。才。と。行。と。只

子あはれいほとらふおちあはしうに仲光
 せくきたるうま。是と室敷の由言禁子
 て^{満仲}いふ仲光。おと存の如く物して
 美女あはして子と云老あ。り子より
 しては母の子の幸寿と一子と愛む
 愛。意ひく時出。人。いほは
 小ては。美女出前と出別まじはあ。

みる元結切言に夫ひて。同知の仲光
 小ては。い。中。ま。は。り。り。久。根。留。り。わ。と。思。ふ
 心強くハ云はれた。思思あ。ん美廿丸と
 毛。秋。子。の。く。く。手。割。し。お。二。人。の。者。お
 別。く。思。ふ。よ。も。玉。出。お。よ。ま。じ。習。ひ。ま。命
 い。池。子。皆。ま。ぬ。そ。と。仲。光。と。ど。れ。う。か。す
 一。子。を。よ。う。け。ん。ら。や。親。子。の。道。か
 一。子。を。よ。う。け。ん。ら。や。親。子。の。道。か

死に者少くは程お仲光に申付去ひて
 早早中お付まひ心とあつめて等しけれ
 少くは美女は前とまひ申をどのに役割り
 成りに仲光お思ふやうにうて三世の
 主君と手に懸申へこと思ふは子
 幸壽の首と切美女と申ては肩お掛て
 されは致子お替へ思ふ程の美女は前の所

不害免一あり是と美女は前と満
満仲の心前おとまひされは事お社務末練
 成美女成まら幸壽と教ふは法をおかや
 自害にぬらさる早やくは子とよき事
 幸壽のゆかりと思へる。美女は助きてを
是流へは流へ申されは猛心もよやく
是中早所掌をやりたり仲光余りの嫉ヤ

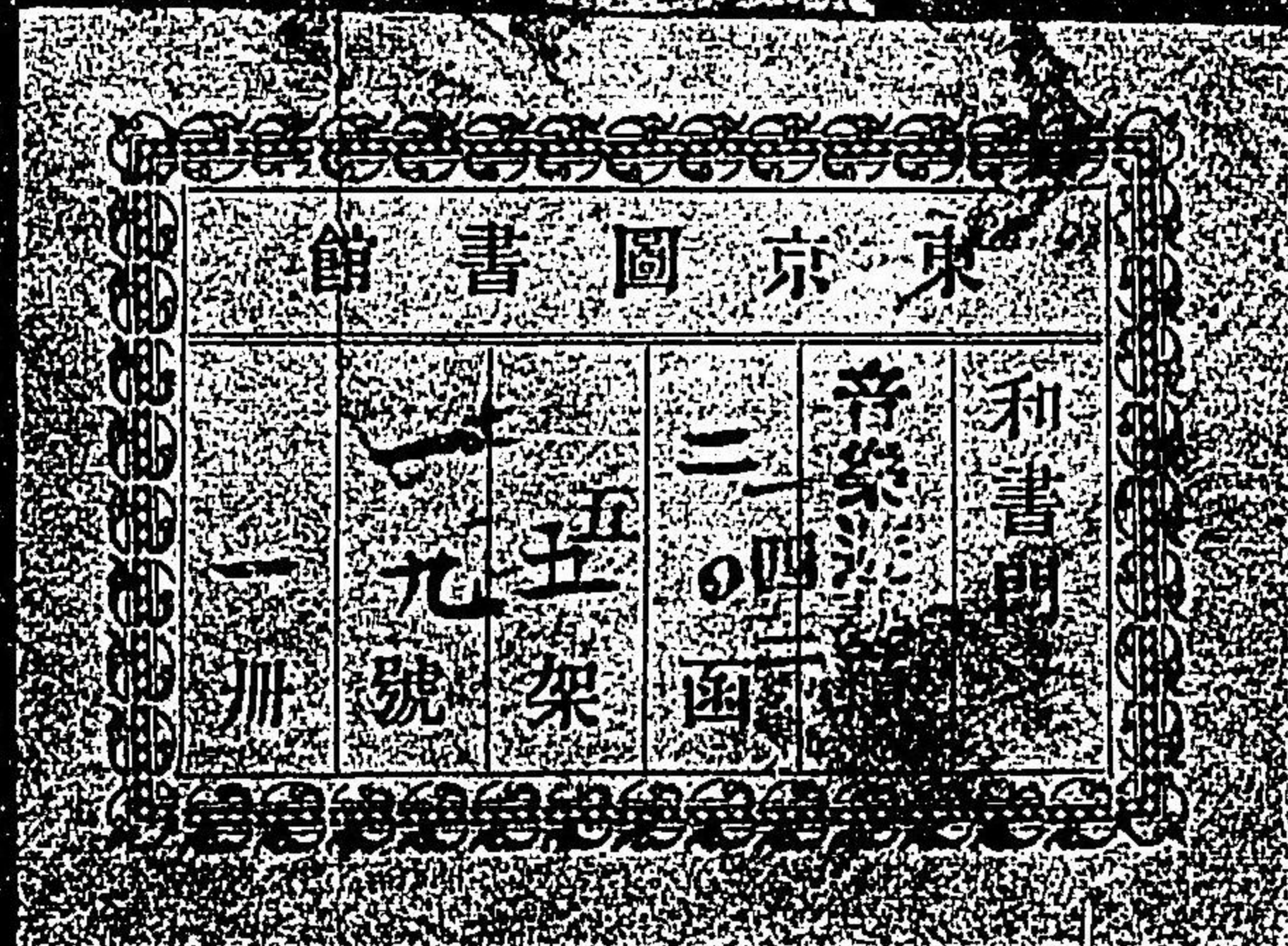


143

79

仲

光



075027-000-1

143-79

仲光

観世 清孝/校

M13

CEL-0955

